

日本のエネルギーを支える原子力

日本原燃株式会社 再処理事業部
放射線管理部 放射線施設課

高 見 準

私は、昨年3月に電子情報エネルギー工学科の原子力工学科目を卒業し、日本原燃という会社に就職しました。原子力に関係のある人を除けば、日本原燃という会社をご存じない方も多いのではないかと思います。かくいう私も就職活動の際、教授からの勧めがなければ、恥ずかしながら存じておりませんでした。

そもそも、日本原燃とはどのような会社かといえますと、青森県六ヶ所村にて原子燃料サイクル事業を進めている会社で、具体的には、①原子力発電所の燃料となるウランの濃縮、②低レベル放射性廃棄物の埋設③高レベル放射性廃棄物の貯蔵、④使用済燃料の再処理、⑤MOX燃料の製造、という5つの事業を行っています。

何故青森にまで行ってこの会社にはいったのかと疑問に思われるかもしれません。何故と聞かれて、一言で言えば、“将来性”でしょうか。近年、温暖化問題がメディアで頻繁に取り沙汰され、二酸化炭素排出削減をめぐる動きが活発になっています。この二酸化炭素削減に効果的な発電といえば原子力です。またその他、低エネルギー自給率・エネルギー資源獲得競争激化などの背景もあり、原子力への回帰が見られるようになってきました。こうしたことによる原子力自体の“将来性”に加えて、日本原燃では現在再処理工場の稼動試験真っ最中で、それが終われば操業開始という、これからの会社として“将来性”を強く感じました。

私にとっては大変魅力的な仕事ではありますが、いいことばかりではありません。再処理に反対される方は多くいらっしゃいますし、安全性の問題については皆さん関心を持たれているのではないのでしょうか。

私は、放射線施設課という部署に所属し、まさにその安全に関わる仕事をしています。具体的には作業員や周辺住民の方に放射線による被害を与えないよう、放射線量や放射性物質の濃度を測定・監視している放射線測定器の点検・校正を行っています。測定器が正しくなければ放射線を管理できず、管理できなければ

安全を守ることはできない訳ですから、重要な役割を担う部署であると感じています。

こんな会社・仕事内容ですから、規則には厳しく、何をするにも制定された細則・マニュアルなどを十分に確認しなければなりませんし、報告書もしっかりと作成しなければなりません。最初ほどの細則を見ればよいかかわらず四苦八苦ししました。最近やっとこの環境にも慣れてきましたが、まだまだ知らないことの方が多く、日々勉強といった感じです。

私たちの仕事は地元住民の理解なくしては成り立ちませんから、広報活動も盛んで、そのひとつとして、青森県内の大学の大学祭に電力会社と共同で出展し、その対応にかりだされることもありました。来場者に再処理や放射線について正しく理解してもらうための説明をし、質問に答え、時には雑談をして交流を図るなど、入社前には想像もしていなかった仕事もあり、戸惑いながらも楽しく貴重な経験をしました。

その他にも地域貢献の意味で、清掃活動ボランティアや社員寮で毎年寮祭を開催して地域住民を招いたり、様々な活動を行いました。これらに参加することで、地元の理解を得ることの意味、その必要性もわかってきました。というのは、私が考えていた以上に、日本原燃という会社に対し、「何をやっているのだろうか？」とか「本当に大丈夫なんだろうか？」と不安を持って見られていることがわかったからです。

私が携わる業務は安全に関わるものですから、仕事を誠実にこなし、日々努力向上を心がけていくことで、会社の信頼向上に繋がると考えています。それが、事業の推進に繋がり、原子燃料サイクルを確立、温暖化問題や日本のエネルギー問題への貢献になればうれしい限りです。そのためにもまず、十分な知識と技術を身につけるよう努力していきたいと思っています。

(原子力 平成20年卒)